

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
1 基本的な生活習慣を身につけ、自己研鑽に努め、宗教心の薫育、奉仕活動への参加を促す。	① 基本的な生活習慣の定着を目指す。	総務 教務 生徒指導	基本的な生活習慣が A 十分定着している 63% B まあまあ定着している 31% C あまり定着していない 5% D 定着していない 1%	C・D評価が15%以上 で指導体制を強化する。 A・B:94% C・D: 6%	※学校生活に関するアンケート最終16(1)(2)(3)を統合 高校は最終教育機関であり、本校が周囲から期待されているところとして、生徒への働きかけとともに、教師側の意識を上げていく必要がある。
	② 生徒の読書意欲を高め図書館の貸出冊数を増加させる。	図書館 総務	全校生徒中、貸出者数の割合が A 30%以上 B 30~20% C 20~10% D 10%未満	D判定は意欲を促進する内容と活動を検討する。 A 38%	※学校生活に関するアンケート最終15 図書便りを発行し、新着図書の紹介や書評を行っている。借りる生徒と借りない生徒の差が大きい。朝読書週間の機会を捉えて読書の習慣を広めていきたい。
	③ 本校の柱である宗教教育についての認識を深める研修の機会を持つ。	宗教科 第1学年	上山研修は A 十分満足できた 40% B だいたい満足している 45% C あまり満足していない 7% D 全く満足していない 2%	C・D評価が15%以上 において内容を検討する。 A・B:85% C・D: 9%	※学校生活に関するアンケート最終6 宗教科教員と学年団の協力、また、本山スタッフとの連携がきちんとできており、生徒の研修に取り組む姿勢をつくることできている。 ※不参加 6%
	④ 宗教の授業や行事(花祭り、報恩講)を通して、自己の内面を省みることを目標とする。	宗教科	宗教教育で自分の生き方を考えることが A 非常によくできた 33% B まあまあできた 56% C あまりできなかった 9% D 全然できなかった 2%	C・D評価が15%以上 において内容を検討する。 A・B:89% C・D:11%	※学校生活に関するアンケート最終4・5を統合 授業では生徒が自分自身に問いかけることを大切にしている。花祭りや報恩講では、教員による寸劇を行うなどして、生徒の興味・関心を高める工夫をしてきた。
	⑤ 各種ボランティア活動に積極的に参加し、奉仕の精神を育成する。	総務(管理) 生徒会 ボランティア	ボランティア活動に参加した回数 A 年間3回以上 21% B 年間2回 13% C 年間1回 23% D 年間0回 43%	C・D判定が25%以上 において内容を検討する。 A・B:34% C・D:66%	※学校生活に関するアンケート最終14 外部からのボランティア依頼があるが、その多くはボランティア部や福祉コースの生徒といった一部の参加となっている。一年後には福祉コースの生徒がいなくなるが、奉仕の精神を継承していくためにも、次年度はボランティア参加の裾野を広げたい。
1 学校関係者評価委員会の評価	読書意欲を高める努力をする必要がある。 奉仕活動は部活動単位ではよく貢献している。全校生徒の取り組みとしては、木場湯の清掃など自主的に(外部からの依頼ではなく)行う試み				

してはどうか。PTAも一緒に活動する機会があってもよい。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
2 基礎学力の向上とともに学習意欲の涵養に努める。特に進路に対する個人指導を重視し、新たな自己の才能の伸長を促す。	① 各教科において、興味、関心、意欲を引き出す授業の確立に向けて、教材の精選と指導法の工夫改善に努める。	教務(研修) 教科	分かりやすさを実感している生徒の割合 A 大変工夫されていると感じる 20% B まあまあ工夫されていると感じる 73% C あまり工夫されていると感じない 6% D 全く工夫されていると感じない 1%	C・D評価が25%以上 において教務課を中心に改善策を検討する。 A・B:93% C・D:7%	※学校生活に関するアンケート最終3 新カリキュラムや大学入試の変革への対応、ICT教材の活用に関し、今後取り組む必要がある。
	② 基礎学力の確認、向上とともに学習習慣を身につけさせる。	教務 教科	確認テストを達成している生徒の割合 A 75%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・D判定においては実施内容・指導方法を検討する。 A:99%	今年度の大谷基本問題集の使用は3年生のみとなり、合格するまで追試を行った。その結果、合格者は99%となった。1・2年生はマナトレを使用し、基礎基本の学習内容の定着に努めた。次年度は、全生徒の基礎学力を向上させるために、教務・担任・教科担当が連携をとって、計画的に進めていきたい。
	③ 普通科の情報ビジネス、福祉ボランティア、進学、特進の各コースと体育科の特色が顕在化するように研究と指導に励む。	教務 各コース	取り組みについての生徒の自己評価 A 意欲的に取り組むことができた 16% B まあまあ取り組むことができた 43% C あまり意欲的に取り組めなかった 34% D 全く意欲的に取り組めなかった 7%	C・D評価が25%以上 において内容を検討する。 A・B:59% C・D:41%	※学校生活に関するアンケート最終2 生徒の学ぶ意欲を引き出せなかった。知ることや分かることが楽しいと生徒に感じさせる工夫が足りなかった。また、高校の学習が将来に結びついているということの意識づけも弱かった。次年度は進路指導とタイアップして取り組んでいきたい。
	④ 各学年において、一貫したキャリア教育を通して、職業観や勤労意欲の育成に努め、よりよい進路選択の一助とする。	進学 就職	進路選択に A 非常に役立った 32% B まあまあ役立った 56% C あまり役立たなかった 9% D 全然役立たなかった 3%	C・D評価が25%以上 において内容を検討する。 A・B:88% C・D:12%	※学校生活に関するアンケート最終7 総合的に見て、各学年における進路研修が概ね役立っているのは、回数や内容が良かったからだと思われる。しかし、A判定を上げるためにさらに工夫し充実した内容にする必要がある。
	⑤ 生徒、保護者の志望を把握し、きめ細かなガイダンスを実施し、個人面談・家庭訪問を行う。	教務 学年	保護者が希望する面談回数 A 年3回以上 21% B 年2回(現状維持) 74% C 年1回 1% D しなくてもよい 0%	A・C・Dのいずれかの回答が25%以上の場合、面談の回数・あり方を検討する。 B:74%	※PTA総会保護者アンケート6 特進コースの保護者を中心に、年3回以上の回答が多かった。次年度は、希望する保護者と面談する機会を設けていきたい。
2 学校関係者評価委員会の評価	社会に出て基本として大切なのはコミュニケーション能力と協調性と思われる。挨拶運動等を充実させた方がよい。 進学指導において大学受験に十分対応できるものを、方向性を持って計画的に行い、指導教師の連携の必要性を感じる。				

保護者面談は、保護者の希望に応じて行うべきである。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
3 地域社会に根差した学校を目指し、生徒指導の充実を図るため、教職員間(担任・教科・部顧問)及び保護者、地域住民との連携「報・連・相」を徹底する。	① 地域交流及び教育活動の一環として、「谷高ふれあいレクリエーション」を開催し、生徒はボランティア活動として主体的に参加する。	総務 保健体育 生徒会 PTA	地域に A よく貢献した 33% B まあまあ貢献した 67% C あまり貢献しなかった 0% D 全く貢献しなかった 0%	C・D評価が25%以上 において内容を検討する。 A・B:100% C・D:0%	※学校評価委員(保護者)アンケート2 開催が10年を超え、地域に定着してきた。地域住民と本校の教職員・生徒との憩いの交流の場となっている。
	② 学校周辺町内の全校生徒による清掃作業。「わが町美化ピカ隊」への参加	総務(管理) 全学年 (PTA)	清掃活動についての生徒の自己評価は A 積極的に取り組むことができた 26% B ある程度取り組むことができた 52% C あまり取り組むことができなかった 13% D 全然取り組めなかった 9%	C・D評価が30%以上 において内容を検討する。 A・B:78% C・D:22%	※学校生活に関するアンケート中間7 「わが町美化ピカ隊」の活動も5年目に入り、かなり定着してきたように思われるが、着替えをしていない生徒がいるなど、まだ不十分なところもある。次年度は、環境美化の意識向上を図り、活動範囲等も見直し、年3回の実施は目指したい。
	③ 交通マナー向上のための活動に努力する。	生徒指導 生徒会	交通マナーについての生徒の自己評価は A よく守っている 64% B まあまあ守っている 33% C あまり守っていない 2% D 全く守っていない 1%	C・D判定が10%以上 で指導体制を強化する。 A・B:97% C・D:3%	※学校生活に関するアンケート最終16(4) 夕方下校時の蛍光タスキ、雨天時のカッパの着用の取り組みが不徹底である。一つ一つ改善していく教師側の姿勢を大切にしていきたい。
	④ 危機管理意識を高め、事故防止と発生時の対応に万全を期す。AED講習会も開催している。(AED2台の設置) 「三大訓練の実施」	総務 保健体育 生徒指導	危機管理に関する校内教員研修・訓練を A 年間3回以上行った B 年間2回行った C 年間1回行った D 全く行わなかった	C・Dにおいては日程・内容を検討する。 B	AED講習会(5・6月)、総合防災訓練(6・11月)とともに年2回実施した。日赤や消防の専門職の方と連携して行えたことで、生徒の意識も高まっていた。次年度も継続していきたい。
	⑤ 学校行事を通して、PTAとの連携を図り生徒たちの学校生活を見てもらう。	総務 生徒会	学校と保護者の連携が A かなり深まった 17% B まあまあ深まった 63% C あまり深まらなかった 19% D 全く深まらなかった 1%	C・D判定が15%以上 で日程・内容を検討する。 A・B:80% C・D:20%	※学校評価委員(保護者)アンケート1・3・4統合 今年度は強歩大会が中止となり、昼食時に豚汁を提供するのみとなったこと、また、役員の参加が少なかったことが、連携不足の結果につながったと思われる。「教育を考える集い」は、会場が本校であったこともあり、PTAと協力して運営できた。
3 学校関係者評価委員会の評価	地域交流の取り組みはよくできている。行事に至るまでの過程が協力関係を醸成するので、企画や運営はもっとPTAの保護者に任せてもよい。 交通マナーは地域住民の生活と関わり合いが大きいので、向上させる活動を強化すべきである。				

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
4 生徒会活動、部活動への参加意識を高め、自主・自立・協調の精神を育成し、心身の健全な発達を目指す。	① 新入生の部活動全入部体制と活動内容の充実・向上を図る。	生徒会 第1学年 学年	部活動に満足している A かなり満足している 39% B まあまあ満足している 43% C あまり満足していない 12% D 全く満足していない 2%	C・D評価が10%以上 において指導体制を 検討する。 A・B:82% C・D:14%	※学校生活に関するアンケート最終8 担任は生徒個々の実状を把握し、部顧問と連携をとる。学年全体で補佐、指導する態勢が求められる。 所属しているが、参加していない 1% 所属していない 3%
	② 生徒が主体となる委員会活動 球技大会・体育祭・文化祭 等を活性化させる。	生徒会 学年	生徒会活動について A よく活動している 38% B まあまあ活動している 52% C あまり活動しているとは思わない 8% D 活動しているとは思わない 2%	C・D評価が30%以上 において活動のあり方 を検討する。 A・B:90% C・D:10%	※学校生活に関するアンケート最終12 生徒の意見をいかに具現化できるか、生徒会担当に委員会顧問も含めた話し合いの場を設けていく必要がある。
	③ GS隊による挨拶・交通安全 活動	生徒会	GS隊活動についての生徒の自己評価は A 積極的に取り組むことができた 20% B ある程度取り組むことができた 35% C あまり取り組むことができなかった 9% D 全然取り組めなかった 5%	C・D評価が30%以上 において活動のあり方 を検討する。 A・B:55% C・D:14%	※学校生活に関するアンケート最終13 各専門委員会が担当する方式をとって2年目を迎え、生徒の自覚、責任感が喚起できつつある。登校手段によって参加できない生徒の代理を立てさせることも検討すべきである。 ※天候不順等でできなかった・当番ではない:31%
	④ 鑑賞や創作を通して情操陶冶と 健やかな人間形成に役立てる。	生徒会 国語科	豊かな心を育てるのに A かなり役立った 27% B まあまあ役立った 58% C あまり役立たなかった 12% D 全く役立たなかった 2%	C・D評価が25%以上 において活動のあり方 を検討する。 A・B:85% C・D:14%	※学校生活に関するアンケート最終10・11統合 「短歌俳句大会」は学校行事として定着している。今後は、授業での指導により作品の質を高めていくことが求められる。さらに生徒自身が優秀作を選ぶことを通して、鑑賞眼を養ってきたい。 ※不参加:1%
4 学校関係者評価委員会の評価	生徒が主体となる委員会活動では、生徒の意見を大いに具現化すべきである。 野球の全校応援以外にも、クラス単位での活動などがあった方がよい。 GS隊の活動は活発にすべきだが、天候が極めて悪い時は中止にした方がよい。				

